



福島からの避難者に赤ちゃん誕生の報を受け、マスコミ11社が取材に！

ひとりじゃない。周りの人がきっと支えてくれるからがんばって！

役所機能は停止、国との連絡もできてない！怒りを感じる。

福島から自主避難され 3/26 に出産された会田さんご夫婦、主治医神谷理事長、助産師同席の元、母子への負担も考慮して短時間の会見を協同病院の会議室で行いました。はじめに神谷理事長から受け入れまでの経緯と今後の問題点について話がされました。記者から「のぞみと言う名前の由来」や「生まれた時の気持ち」「原発からどの程度の距離だったのか」「今後について」「今、心配なこと」といった質問に対して「原発から 5km の位置にあった大熊町は役所機能も停止したままで、国との連絡・調整もできていない。いつ頃戻れるのかといった不安の中、国の対応の悪さに怒りを感じている」「赤ちゃんにとって放射能の影響がどうなのか」・・・。

同じ妊婦で避難してきている人へのメッセージとして「ひとりじゃない。医師や看護師、周りの人がきっと支えてくれる。頑張る」とエールを送りました。

- 【本日 (3/31) ①NHKニュース (16時～19時の間)
- ②テレ玉 5:45、21:30

【明日 (4/1) の新聞各紙をチェックしてください】



第7班からの現地レポート！

支援物資・一旦中止します 義援金は引き続きご協力を！

全日本民医連の提起にある給与の1日分を義援金に協力しよう！

◆本日午後は地域訪問を行いました。オリエンテーションの後、2時間地域訪問を行いました。神奈川の薬剤師を交えて6人で2チームに分かれて60数件を訪問、44件の対話ことができました。てんかん治療中の方でかかりつけ医と薬局が被災したので薬が3日分しかないという相談、坂総合の患者も対話した4分1位いたが通院手段がないという声などがありました。 ◆訪問した地域は多賀城市大代。海岸線から離れていても運河から40～50mの所は私たちの身長より高い津波の痕跡があり、被災者の方は2～3日前からやっと家の片づけを始めたと言っていました。電気以外のライフラインもまだ復旧していませんでした。100mと離れていなくても、土地の高低で明暗が違う状況を目の当たりにしました。